



## アジア刑政財団（ACPF）メールマガジン開始のご挨拶

アジア刑政財団理事長 北 田 幹 直

新型コロナウイルスが猛威を振るい連日の感染者数と死亡者数が報ぜられるニュースに心塞がれる思いです。亡くなられた方々とそこにご遺族に心からお悔やみを申し上げ、闘病中の方々には一日も早い快癒をお祈りいたします。

感染拡大防止のための緊急事態宣言期間中、多くの ACPF 会員の皆さん方も行動自粛の日々を過ごされているのではないかと拝察いたします。コロナ感染拡大の影響で 4 月 20 日から 27 日までの間、京都で開催予定だった第 14 回国連犯罪防止会議（コングレス）が延期（開催時期未定）となり、またアジ研の春と夏の国際研修も同様に延期となってしまいました。当財団は、コングレスでは、アジ研と共催で各国の刑事司法分野で活躍中のアジ研同窓生を歓迎するパーティーやサイドイベントとして犯罪者処遇や汚職対策等をテーマとしたパネルディスカッションを企画していたところでした。春、夏のアジ研研修では各支部のご支援を頂いて研修員との様々な形の交流イベントが行われるのが通例でしたが、これらも実現できない状況にあります。

このように現状は当財団の実質的な活動を休止せざるを得ない日々が続いています。人と会うことが制限され対面交流ができない今だからこそ ACPF からの情報発信を強化しようということでメールマガジンを発刊することと致しました。

このメールマガジンでは、昨年（2019 年）6 月から開催するようになった ACPF フォーラムでの講演内容やタイ法務総合研究所とのジョイントセミナーを始めとする海外でのセミナー等の状況、さらには内外の刑事司法に関連した興味深い情報などを提供していきたいと考えています。アジア刑政通信は発行頻度が限られ、また字数の制約もあることから掲載しづらかったものをより迅速にそして充実した内容で発信していきたいと考えています。

メールマガジン第一号は、山下輝年事務局長の第一回 ACPF フォーラム講演「日本は中世の刑事司法か?!」と、山下局長の軽妙なタッチで書かれた「ルールが機能する分岐点」についてのコラム記事をお届けします。いずれも大変興味深い内容ですので是非ご一読下さい。

最後に会員の皆様のご健勝、ご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。